

報告書抄録

ふりがな	しじゅうくいんいせき							
書名	四十九院遺跡							
副書名	安食西八目線道路整備工事に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	滋賀県文化財保護協会調査報告							
シリーズ番号	第9集							
編著者名	福井知樹 辻川哲朗							
編集機関	公益財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2							
発行年月	令和8年(2026年)3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しじゅうくいんいせき 四十九院遺跡	しがけん 滋賀県 いぬかみぐん 犬上郡 とよさとちょう 豊郷町 おおあざしじゅうくいん 大字四十九院	254410	441-002	35度 12分 24秒	136度 14分 12秒	20240401 ～ 20240614	782.45㎡	安食西八 目線道路 整備工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
四十九院遺跡	集落	奈良時代		—		須恵器		
		平安時代前期		溝・小穴		須恵器・灰釉陶器		
		室町時代		溝・井戸		陶器		
		江戸時代～近代		溝・井戸		陶器		
要約	<p>今回の調査では、溝・小穴・土坑・井戸を検出し、これらに伴って土師器・須恵器・陶磁器等が出土した。</p> <p>検出遺構や出土遺物から、調査地には4段階の活動痕跡が見出せた。第1段階は8世紀代、第2段階は9世紀～10世紀前半、第3段階は15世紀中頃～16世紀後半、第4段階は18世紀以降である。</p> <p>①当該期の若干量の遺物から窺い知れるのみである。これは昭和61・62年調査時に検出された竪穴建物・掘立柱建物の時期に当たるが、東山道を挟んだ東側で集落が形成され、東山道の西側までは集落域が及ばなかったようである。</p> <p>②溝や小穴が構築される時期で、これらの遺構は東山道側へ移転した集落の縁辺部に当たるとみられる。</p> <p>③溝や井戸が構築される時期に当たる。第2段階から第3段階にかけて農地が展開されたとみられる。</p> <p>④調査地西半で検出した鋤溝や井戸の時期に当たる。第2段階～第3段階で展開された農地が昭和60年代の圃場整備を経て現在まで続いた。井戸は犬上川左岸扇状地という貧水地帯において、自然灌漑や犬上川一ノ井からの取水の恩恵にあずかれない当地域で、明治42年に砂山池揚水機場の利用が開始されるまでは貴重な農業用水の水源であったとみられる。</p> <p>これらの資料は、豊郷町や犬上川左岸扇状地における開発過程を知るうえで貴重な成果である。</p>							